学習指導案形式例
【R８ 特別の教科　道徳】
（群馬県教育委員会）

【主題名】
・どのような道徳的価値をねらいとし、どのように教材を活用する授業であるか、その内容を大まかに捉えられるように端的に記述する。
（以下の例で示すような、学習するテーマなど）
例：「自由と自分勝手」「あきらめない心」

【児童（生徒）観】
・**「１　価値観」に関連する当該学級の児童生徒のこれまでの実態等（よさや課題）**と、実態から**育てたい道徳性の諸様相**などを簡潔に記述する。
・児童生徒の実態を**道徳性の諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）の視点から分析**し記述する。
・「～ができない。」といった否定的な記述のみは避け、児童生徒の実態を肯定的に捉えて記述する。

※文例はあくまで１つの参考となります。

フォントサイズ･･･原則：10.5Ｐ、小：9.0Ｐまで

道　徳　科　学　習　指　導　案

主題名「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」　学指要領：Ａ　〇〇〇〇

令和〇年〇月〇日（〇）　第〇校時　〇〇〇〇教室
〇〇立〇〇〇学校　〇年〇組　〇名　指導者　〇〇　〇〇

Ⅰ　主題設定の理由

１　価値観

例：　～～～～とは～～～～～と考える。なぜなら、～～～～～～～～～につながるからである。
　しかし、この時期の児童（生徒）は～～～～～～～～～～～～のようになることがある。
　そこで、～～～～～～～～～～～～～に気付き～～～～などについて～～～～～～と思えるようになることが大切となってくる（養うことが大切となる）。
　また、今後、この内容項目は〇学年においては、「～～～～～～～」へと発展する。

２　児童（生徒）観

例：　本学級の児童（生徒）は～～～～～～～～～～～～。～～～～～～～～～～している児童（生徒）は多い。～～～～は理解しており、～～～～の判断はできる。しかし、～～～～～。～～～～の様子は見られるが、～～～～は～～～～である。
　これらのことから、本授業を通して～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～しようとする判断力（心情、実践意欲と態度）を育てたい。

３　教材観　教材名「〇〇〇〇〇」（出典：〇〇〇〇〇）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

【ねらい】
・「**中心的な学習活動＋本時のねらいとする道徳的価値や焦点を当てたい道徳性の諸様相**」とし、**教師の立場**で、具体的かつ簡潔に記述する。
・参観者が、「ねらい」を見ただけで、授業の主たる学習活動や目標をイメージできるように記述する。
（授業参観の視点となる）

【めあて】
・「ねらい」を達成するために、児童生徒の問題意識を基に、本時で扱う道徳的価値へ方向付ける**児童生徒向けの言葉**を記述する。
・道徳科では、教材を基に考え議論する必要性が増すように、内容項目に関わって掘り下げて考えたり、一言では返答できなかったりする言葉が多くなる。
例：本当の友情とはどういうことだろう。
親切にすることが大切なのはなぜだろう。

【主な学習活動】
・番号を付け、**児童生徒の立場**で、具体的かつ簡潔に記述し、時間は大まかに（○分）で示す。
・「導入」「展開」「終末」の区切りは実線とする。

【予想される児童（生徒）の意識】
・児童生徒の意識を「S」として記述する。
・本時の「**ねらい**」**とする道徳的価値に対する児童生徒の意識を表現**する。

発問については、実線四角で主な学習活動の枠中に示す。
※基本発問については、指導上の留意点に示す。

【中心発問】
・本時のねらいに迫るために多様な考えを引き出す言葉を具体化して示す。
・中心発問では教材の仕掛けを生かし、登場する人物の道徳的変容の前後に見られる行為や言葉の裏にある「意味」や「心」を問う。

【補助発問】
・児童生徒の本音を引き出し、考えを深める言葉を具体化して示す。
・補助発問では常識や当たり前と考えていることに対して問い直したり、きれいごとで終わりそうな発言に対してゆさぶったりする。

Ⅱ　本時の学習

1　ねらい　～～～～～～～～～～～～～～～中心的な学習活動（手立て）～～～～～～～～～～～～～を通して、～～～（価値やよさ）～～に気付き、～～しようとする判断力（心情、実践意欲と態度）を育てる。

2　展　開

主な学習活動 主な発問（◎中心発問　◇補助発問） 予想される児童（生徒）の意識〔S〕	○指導上の留意点
1　本時で扱う道徳的価値について、問題意識を持つ。（○分） S： <めあて> ～～～～～～～～～～～～～～～